

# 幼稚園の 子どもたち



かぞく みんなで フェリーに のって ほっかいどうに いったよ。なかまの ふねと すれちがうときに きてきが ポー となつて かっこよかったよ。カモメも たくさん とんでいたよ。

▲こどう たくじさん (わかくさ幼稚園 年長)

※図画作品の年次は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「見つめ直そう 子どもの遊び」

## 親学 ノススメ

## 子どもにとっての遊ぶことの意味

名古屋市立猪高幼稚園 園長 栗木 節子

幼稚園の生活は“遊びそのもの”。幼児期には、心と体を動かして遊ぶ中で様々な力を身に付けていきます。

“おもしろそう”“やってみよう”と自分から興味をもち、周りにある「人・もの・こと」に関わっていく中で、“これ、どうなっているのかな”“こんなふうにしてみたいな”と好奇心・探究心を働かせたり、思いを巡らしたり、イメージを膨らませたりして、自分のしてみたいことを実現しようとしていきます。

一人の力ではうまくいかないことを教師に支えられながら取り組んでいく中で、“自分でできた！”と、喜びを感じたり、難しそうなことに挑戦し、励まされながら頑張ったり取り組み“やってみたらできた！”という達成感・満足感を味わったりすることで自信となり、新たなことに向かっていく意欲となっていきます。

また、友達と関わりながら遊ぶ場面で、思い通りにならないことがあることもあります。そのような時は、自分の気持ちに折り合いをつけることや、友達と思いや考えを出しあって遊びを進める楽しさを味わうことを学んでいきます。

このように、遊びの中には様々な気付きや学びがあり、幼児期は

発達過程で自分が見たり聞いたり、触れたり味わったりするなどの直接体験がとても重要です。

遊びの中で、人と関わり、相手の表情を読み取り、言葉を交わして思いを伝えあうことから、自分の気持ちを調整する力、物事に主体的に取り組み、粘り強く頑張る力、そして、他者と協調していく力などが育まれていきます。

子どもの遊びは、家庭での生活とも関連しています。家庭においても、子どもと一緒に、子どもの目線で遊びの楽しさを共有し、子どもが難しそうなことに挑戦しようとしたら、とことん付き合っていたきたいと思えます。

遊びは、子どもにとって、まさに「発達に必要なエネルギー源」です。園と家庭と連携して子どもたちの健やかな成長を支えていきましょう。



## 家庭の日 図画作品



みんなで きゃんぷに いって きのおうちで ねたよ。カレーおにく とうもろこし ビザを たべたよ。カレーは すこし から かったけれど とっても おいしかったよ。

▲なかむら しゅんさん (高田幼稚園 年長)



キャンプにかぞくて いきました。よるは くらくて おそらの ほしや テントの なかの でんきで キラキラと きれいな よる でした。ゆっくり ねわれました。

▲わけ なおふみさん (植田幼稚園 年長)

※図画作品の年次は制作当時のものです。

## 子どもたちが園での遊びの中で学ぶこと

光和幼稚園  
村瀬 悦子

幼稚園の生活の中で、“今日はこんなことをして遊びたい”と子どもたちが自ら好きな遊びを見つけ、自由に遊ぶ「自由遊びタイム」があります。最近では、子どもの運動能力の低下や歩行数の減少も問題とされていることを意識し、毎日の幼稚園生活の中で、園庭で体を動かして遊ぶ時間を多く設けています。3学期に入り、縄跳びを一生懸命に跳ぶ子、鬼ごっこなどをして園庭を走り回る子、ボールを使ってドッジボールやサッカーで勝負を楽しむ子、大切そうにお団子作りや砂で料理する子など様々です。

友達と思いきり体を動かして遊び、友達との関わりを楽しみながら自分の好きな遊びに没頭できる楽しい時間。園庭の木々の変化や花々の美しさに気付き、園庭を散歩する虫なども観察しています。暑さや寒さも肌で感じる事ができる大切な時間です。

しかし、4月の入園当初は不安な気持ちを抱える新入園児に「何をして遊びたいかな？」と教師が問いかけても、「なんにもしたくない…」と答える子や「ママに早く会いたい」とつぶやく子も少なくありませんでした。そんな子どもたちの気持ちを受け止め寄り添いながら過ごしていくうちに、子どもたちはいつの日か担任の手を離し、自分から好きな遊びを見つけて遊び始めました。一人遊びから友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じるようになり、遊びの

中から自分の思いを相手に伝え、共感し合う姿も増えていきました。

子どもたちは、幼稚園生活の中で様々な遊びを通して、心身の調和のとれた発達の基礎を築き、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育てています。遊びの中から多くのことを学ぶ子どもたちの“笑顔”と“輝き”を大切にして、毎日保育しています。



## 公園遊びから 子どもの成長を感じて

名古屋市立大幸幼稚園  
保護者  
芝田 道子

年少の娘は公園で遊ぶことが大好きで、小さい頃から近所の公園へ遊びに行っています。最初は公園の中を歩くだけでも大喜びでした。草が生えている、アリがいる、木の枝が落ちているなど、発見したもの一つ一つを手にとり、感触を楽しみ、何十分も座り込んでいたこともありました。次第に遊具へと目が向くようになり、ブランコに乘せてみるとゆらゆら揺れることが面白く大喜び。「もっと乗りたい！」とブランコが大好きになりました。ある日公園へ行くと他のお友達がブランコに乘っていて使えません。娘が大泣きして「乗りたい！乗りたい！」と騒いでいると、その姿を見て「どうぞ」と快く代わってくれたお友達がいました。娘はピタッと涙が止まり、私と一緒に「ありがとう」と言いました。「代わってもらえてうれしかったね」と言うと娘は「うん！」と満足そうにブランコに乗りました。しばらく乗っていると今度は他のお友達がブランコに乗りたくてやってきました。以前はわんわん泣きながら「いやだいやだ」という娘を降ろして交代させる

こともあったのですが、「どうぞ」と優しく代わってもらってうれしかったのか、自分から交代していました。少しずつ我慢ができるようになったり、他のお友達も自分と同じようにブランコで遊びたいのだと他者の気持ちが分かるようになってきたりと娘のちょっとした成長をうれしく感じました。

公園では自然に触れたり、身体を思いきり動かしたり、他のお友達が遊ぶ姿を見ることができたりして、子どもにとって楽しい発見がいっぱいなのだと感じます。もちろん楽しいことばかりではなく、自分の思うようにならないこともあります。それもとても大事な経験だと思います。

家事や育児に奮闘する日々ですが、これから子どもの何げないつぶやきにほほえんだり、ちょっとした成長に気付いて喜んだりしながら、子育てを楽しみたいと思います。





## 子育て Q&A

# Q

スマートフォンの操作を覚えた我が子は、最近遊ばせてほしいとせがむようになりました。遊ばせても良いのでしょうか。

# A

近年、スマートフォンやタブレット端末などが普及し、多くの人が利用するようになりました。便利な機能が数多く付いており、手軽に様々な情報を得たり遊んだりできることが魅力で、大人でもつい夢中になり、いつの間にか時間が経っていたということがあるのではないのでしょうか。このように大人が楽しむ様子を見て、子どもたちも興味をもち、触っているうちに操作を覚えていくのでしょう。

スマートフォンやタブレット端末で遊ぶことが問題というわけではありません。しかし、スマートフォンなどで長時間遊ばせることによって、親子のコミュニケーションの機会が減ってしまうことには注意が必要です。幼児期の子どもにとって、親子のコミュニケーションは非常に大切です。子どもの気持ちに共感したり、子どもの気持ちを認めたりしながらコミュニケーションをとることで、子どもは、親が自分を見ていてくれる、愛してくれていると実感することができます。そして、こ

の積み重ねが、子どもの自信や自己愛、自己肯定感につながっていくのです。

また、幼児期は、子どもたちが遊びを通して様々なことを学び、成長していく時期でもあります。例えば、外で遊ぶ中で風の心地良さや体を動かす気持ち良さを感じたり、道端の花を見つけて美しさを感じたりします。近所の同世代の友達と一緒に遊び、思いがぶつかり合うことで、人の気持ちに気付いたり必要な言葉を覚えたりしていきます。これらは、遊びの中で実際に体験しているからこそ自分なりに気付いたり感じたりすることができ、それが学びにつながっていきます。バーチャルの世界ではなかなか経験することはできません。子どもの健やかな成長のために、遊びの中で実体験を取り入れ、五感を刺激するようにしたいものです。

電子機器と親子で上手に付き合いながら幼児期だからこそ経験できること、幼児期にしか経験できないことを大切にしていきたいでしょう。

## こんなほん あんなほん

# 「おともだちとあそぶと楽しいね」

### 『だるまちゃんとてんぐちゃん』

加古里子／さく・え  
福音館書店



だるまちゃんは、てんぐちゃんと同じようなものが欲しくてたまいません。大きなだるまどんに探してもらいますが、どれも納得がいかななくて…。仲良しの友達とおそろいで遊びたい気持ちが伝わってきます。

鶴舞中央図書館からの紹介です

### 『フランススのおともだち』

ラッセル・ホーバン／作  
リリアン・ホーバン／画  
松岡享子／訳  
好学社



女の子のフランススが野球に入れてもらおうとしても、男の子たちは入れてくれません。怒ったフランススは妹のグロリアと一緒にとびきり楽しい遊びを考えます。

### 『たからさがし』

なかがりえこ／文  
おおむらゆりこ／絵  
福音館書店



ゆうじとうさぎのギックは、すてきな棒を1本見つけました。棒が欲しくて勝負しますが、かけっこ、すもう、はばとび、すべて同じでどちらが強いか決まりません。困ったふたりは、おばあちゃんに相談します。

### いっしょだと、楽しいね

この頃は、お家で絵本の読み聞かせをなさっている方も、大勢いらっしゃるでしょう。肩を寄せあって本をのぞきこむ楽しさは言うまでもありません。また、幼稚園などのおはなし会では、友達とおはなしの楽しさを共有できるのがいいですね。読み聞かせをしていると、「大変だ!」「どうやって?」など、にぎやかに声が揚がる場合があります。楽しんでいる友達の気持ちは、他の子にも広がっていきます。物語の中で繰り返される言葉を大きな声で唱和したり、愉快な場面思わず友達とほほえみを交わしたり。読み聞かせしてもらった絵本が、友達と一緒に楽しんだ思い出とともに心に残っていくといいですね。

名古屋市鶴舞中央図書館  
児童担当 前田・中村・新藤・金子

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

## ●親子で一緒に楽しもう！名古屋市の施設紹介●

### 東山動植物園 (千種区東山元町3-70)



©Nagoya City

昭和12年に開園した歴史ある動植物園。約60haの緑豊かな園内には動物園、植物園、遊園地があるほか、東山スカイタワーも隣接しており、老若男女、様々な楽しみ方ができる施設です。

動物園では大きなゾウから小さなメダカまで約500種の動物を展示しています。植物園では、100種1000本の桜が集まる桜の回廊や国指定重要文化財の温室などがあり、約7000種類の植物を展示しています。話題のニシローランドゴリラ「シャバーニ」や東山の森の妖精「ズーボ」にも出会えます。

### 動物におやつをあげよう

毎月第1～4日曜日に、キリンやアフリカゾウなどにおやつをあげる体験ができます。参加は無料です。  
時間：午後2：00～ 定員：50名  
(午前10：00から、対象の獣舎前で先着順に参加整理券を配布します。)



3/17～5/6

### 東山動植物園春祭り

職員と一緒に歩く園内散歩や、飼育員や植物管理人による楽しいおはなしなど、土日祝日を中心にいろいろなイベントを実施します。桜の開花時期も重なるので、親子でにぎやかな園内の雰囲気を楽しめます。



- 開園時間 午前9:00～午後4:50(入園は午後4:30まで)
- 休園日 月曜日(祝日の場合は直後の平日)、12/29～1/1
- 入園料 大人1人 500円(市内在住65歳以上の方は100円)  
※中学生以下無料
- アクセス 地下鉄東山線「東山公園」下車 3番出口より徒歩約3分
- 問い合わせ先 TEL 052-782-2111 詳しくは、公式サイト  
www.higashiyama.city.nagoya.jp をご覧ください。

### 家庭の日図画作品



なつやすみ ふるさとのかがわけんまで かぞく5人んでくるまののって かえります。よるのドライブは むねが どきどきします。じいじとばあばがまってくれて いるから すごく うれしいです。

▲おかだ だいきさん (第二幼稚園 年中)



なつやすみに おとうさんと おかあさんと おねえちゃんといもうと はなびをみにいきました。とてもおおきくてびくくりしました。ぴんくいろのはなびが とてもきれいでした。

▲こんどう びくとりあさん (万場幼稚園 年少)

※図画作品の年次は制作当時のものです。

## 手をつなごう心もつなごう家庭の日

### 毎月第3日曜日は「家庭の日」

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころです。

子どもは、家庭における家族との会話やふれあいを通して、基本的な生活習慣を身に付け、豊かな心を育んでいきます。

市では、家庭の役割や大切さを考える機会としていただくため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、「家庭の日」をテーマにした図画・ポスター・作文募集などの普及啓発事業を行っています。

「家庭の日」の詳細は、名古屋市公式ウェブサイトに掲載していますので、ご覧ください。(http://www.city.nagoya.jp/から「家庭の日」で検索)

1月13日(土)に、日本ガイシホールで「ファミリーデーなごや」を開催しました。多くの方に来場いただき、盛況のうちに終えることができました。ありがとうございました。

お問合わせは 教育委員会生涯学習課 (TEL 972-3253) まで



### 【編集後記】

保護者の皆様や編集委員の皆様の協力を得て、今年度の「幼稚園の子どもたち」NO.3が発行できました。ご協力ありがとうございました。

今号は、「見つめ直そう 子どもの遊び」をテーマに取り組みました。

子どもの生活のほとんどが遊びです。自然の中での遊びは創造性を培い、集団での遊びは社会性を身に付けるなど、子どもの遊びには子どもの成長や発達にとって重要な体験が多く含まれているといわれています。つまり、子どもの遊びは、学びです。子どもたちが、家庭における子どもの遊びや親子の遊び、子ども同士の遊びなど様々な遊びを通して、いろいろな事を体感し、心豊かに成長されることを願っています。

皆様の協力を得て、今年度3回の「幼稚園の子どもたち」が発行できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

※ご意見ご感想をお待ちしています。係までお寄せください。

●担当／生涯学習課社会教育係  
電子メールアドレス  
a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。